

I 実践

1 研究主題

豊かな人権感覚や人権意識を醸成する適切な教育活動に努め、学校の教育活動全体を通して、人権教育の推進を図る。

(1) 主題設定の理由

本校は全校児童21名の小規模校である。全員が兄弟姉妹のようにまとまり、保護者や地域も学校の教育活動に協力的である。反面、限られた人的環境のため、多様な考えに触れる機会が乏しい。そこで地域の人的・物的環境の活用を通して、互いの良さを認め、温かい人間関係の育成を目指している。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染が懸念される中、差別や偏見を持たず、他者への思いやりと感謝の心を育て、自らの大切さと他者への人権も大切にす態度を育てたいと考え本主題を設定した。

(2) 研究内容

- ア 心を育てる体験活動
- イ 人権に関する啓発活動
- ウ 人権意識を高めるための職員研修の充実

2 実践内容

(1) 心を育てる体験活動

ア 創作和太鼓の演奏

本校では、創立100周年の記念行事で創作和太鼓が誕生した。荒馬座の指導のもと、これまで学校行事のほか地域行事でも演奏を披露してきたが、今年度は、スポーツミーティングや授業参観などで演奏を披露するなど、演奏を披露する場面は少なかった。しかし、練習を通して、お互いに協力することの大切さを学び、所属感や自己肯定感を高めることができた。



イ スポーツミーティング

従来は運動会では、地域と共催の形であったが、今年度は、学校独自のスポーツミーティングの形で行った。

児童は、保護者と共に楽しく運動に親しむことができた。また、児童も保護者も互いのがんばりを称賛し、温かい雰囲気の中で実施することができた。

特に、今年度は、創作和太鼓の発表の機会が少なかったため、保護者の前で発表ができたことは、自信や自己肯定感につながった。



ウ 異学年との交流活動

毎週水曜日は、ロングの昼休みや東小沢っ子カップを行い、全校での集団遊びや異学年交流を行っている。交流を通して、高学年生は下級生の面倒をよくみながらリーダーシップを発揮し、低学年も高学年との交流をととても楽しみにしている。



エ 特別養護老人ホームとの交流

本校では、毎年、特別養護老人ホームとの交流を行ってきた。今までは、訪問して、歌や楽器の演奏をしたり、折り紙のプレゼントなどをしたりしてきた。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、訪問することはできなかったが、手作りのカレンダーや折り紙を作って届けることができた。

(2) 人権に関する啓発活動

ア 人権作品の募集

人権意識を高めるために、メッセージや標語、ポスターの作成に取り組んだ。

イ 道徳教育での人権学習

思いやり・親切、基本的な生活習慣や生命尊重を重点内容と位置付け、各教科の年間指導計画と関連させながら、教育活動全体を通して指導してきた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症への差別や偏見をなくすためにも、公正・公平も重点とした。

(3) 人権意識を高めるための職員研修の充実

ア 全職員で取り組む校内研修

校内研修の時間や生徒指導の情報交換の中で、人権感覚チェックリストの活用や事例研修などを行い、教職員の人権意識を高めるようにした。

イ 年間指導計画の見直し

「人権教育に関わる年間指導計画」を学年に応じて検討をしている。17の人権課題のうち、特に、女性・子ども・高齢者・障害者・同和問題などの課題の見直しを継続して行っている。新型コロナウイルス感染症も重点化していく。

3 成果

- (1) 体験活動や異学年交流を通して、一人一人が大切な存在であることを認識し、思いやりの心をもって生活しようとする態度を育てることができた。
- (2) 創作和太鼓の演奏などを通して、協力の大切さや団結力が高まってきた。

II 今後の課題

- (1) 教育活動全体を通して、さまざまな機会をとらえながら、児童一人一人の人権意識を高めるための取組を計画的・継続的に実践していく。
- (2) 教職員が人権意識を高め人権教育についての共通認識がもてるように、職員研修を計画的・継続的に実践していく。

III 人権コーナー設置の様子

本校には、「人権コーナー」という名称では、設置していないが、道徳的な内容を含んだ「こころのまど」を各学年に設置し、道徳の授業や学校行事などでの児童の考えや感想などを紹介し、人権教育の啓発を行っている。

